

『将来、自立できる人に育てるためには？』

社会福祉法人あかねの会 支援アドバイザー 吉田由紀子

親亡き後も、自立して生きていけるようになるためには、何を育てておけば良いのでしょうか？

専門家に任せれば大丈夫？

➡家庭での親御さんの役割の方が大きい。

- ① 生活面での自立
- ② 社会的ルールを身につける
- ③ 情緒の安定

この基本の三つのことを身につけるためには、濃密な親子関係が基盤にあること、我が子であっても、自分の所有物ではなく他人であること、その心を大事にして、信じて支え続けることが大切。

我が子といえども、他人であり、一人の人間として尊重して対することを忘れない。

① 生活面の自立を含め、生活力を身につける。

➡家庭生活の中で、生活力をどう育てていくのか？

・身辺自立

トイレ

洗面

歯磨き

入浴

洋服選び

好き嫌いなく食べる

・お手伝いを通して

洗濯物取り入れ

くつ下たたみ

食器洗い

そうじ

ぞうきんがけ

☆何ができるようになるということよりも、家族の一員として、自分の役割を果たして、お母さん、お父さんから褒められたり、認められることによって「自己有能感」

が育つことの方が大事。

➡③の情緒が安定しているということの基盤になっていく。

② 社会的ルールを理解し、社会の中で暮らせる力をつける。

家庭は社会の一番小さい単位。

その家庭の中で小さなルールを作って、そのルールを守り、みんなが楽しく暮らせる

ということを体感できるようにしていく。

社会のルールは、みんなが、楽しく暮らすために作られているということ、自分勝手

にしていたら、困る人が出てくるということを体感してもらう。

そのために家庭の中のルールを守ることで、みんなが楽しく暮らせることを日々体感

できるようにしていく。

③ 情緒が安定している。

人は一人では生きていけない。一緒に暮らしている人と協力して気持ちよく暮らすた

めには、情緒的に安定していることが大前提になる。

急にカッとして、物を投げる、大声で叫ぶなどの不安定な状態になると、住み慣れた

地域で暮らすことが難しくなる。

情緒の安定は、小さい頃から、「自己有能感」が育つことが大切。

- ・自分がこの家庭の中で必要であるという感覚を育てる。



- ・お手伝いを通して、その集団内での役割意識を育てる

- ・失敗を非難しない



- ・失敗して、次から気をつけるようになる 「失敗して良かったね」と前向きに捉える習慣がつく声かけをしていく。

以上